

令和4年度 行政評価調書

■ 施策の概要

(第7次総合計画 基本計画 P.116～118)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ4 生活基盤が充実した安全で暮らしやすいまち(生活基盤)		
施策名	4-1 上下水道		
所管部	水道局	関係部	建設部
この施策の 目指すべき姿と その展開方向	<p>(第7次総合計画 基本構想 P.41)</p> <p>安全な水の供給を図るとともに、快適で安全・安心な生活環境を創造し、将来にわたって市民に信頼され続ける上下水道を目指します。</p> <p>このため、経営基盤の強化及び上下水道機能の維持・強化を図るとともに、市民の視点に立った事業経営に努めます。</p> <p>また、歴史的資産の有効活用や再生可能な資源の利活用の検討を行うほか、広域的な連携の推進に努め、危機管理対策の充実を図ります。</p>		
市民アンケート 指標	上下水道に満足している市民の割合	基準値	目標値
		61.4%	基準値より増

■ 施策の内容(小施策)

(第7次総合計画 基本計画 P.116～118)

小施策 及び 指標	(1)安全な水の供給と快適で安全・安心な生活環境の創造		基準値	目標値
	指標	水質分析機器の整備更新数	-	25基
		事業場排水の水質検査実施箇所数	-	400か所
	(2)上下水道機能の維持・強化		基準値	目標値
	指標	導水・送水・配水管の更新延長	-	34.3km
		下水道設備の整備更新数	-	184基
	(3)経営基盤の強化と市民の視点に立った事業経営		基準値	目標値
	指標	水道料金、下水道使用料の収納率	水道99.3%	99.3%
			下水道99.3%	99.3%
	(4)危機管理対策の充実と広域連携の推進		基準値	目標値
	指標	災害対策訓練実施回数	4回	5回

令和4年度 行政評価調書

■施策の評価(一次評価)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ4 生活基盤が充実した安全で暮らしやすいまち(生活基盤)					
施策名	4-1 上下水道					
所管部	水道局	関係部	建設部			
市民アンケート 指標	上下水道に満足している市民の割合		基準値	令和3年度	令和5年度	目標値
			61.4%	63.7%		基準値より増
市民アンケート 指標の推移	◎	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)				
各小施策の 指標の推移	指標		基準値	実績値	推移	目標値
	(1)	水質分析機器の整備更新数(令和元年度以降の合計値による判定)	-	8基	◎	25基
		事業場排水の水質検査実施箇所数(令和元年度以降の合計値による判定)	-	122か所	◎	400か所
	(2)	導水・送水・配水管の更新延長(令和元年度以降の合計値による判定)	-	10.1km	△	34.3km
		下水道設備の整備更新数(令和元年度以降の合計値による判定)	-	30基	△	184基
	(3)	水道料金、下水道使用料の収納率	水道99.3%	98.9%	△	99.3%
下水道99.3%			99.5%	99.3%		
(4)	災害対策訓練実施回数	4回	6回	◎	5回	
指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を基準値とし、当該年度の実績値と基準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥基準値⇒◎、実績値<基準値⇒△)						
【一次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後 の方向性	B-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う			
総評及び今後の 具体的方針 ほか特記事項	<p>・小施策(2)の指標は、令和3年度までの目標値に至っておらず、特に下水道設備の更新数が大幅に下回っている状況にある。交付金が縮小されたことに伴い、事業の実施規模を縮小したことによるものであり、令和4年度にストックマネジメント計画の見直しを実施し、令和5年度には令和4年度に見直した内容で取組を進める。</p> <p>・小施策(3)の指標の水道料金の収納率は、大口需要者の支払遅延により収納率が下回ったものであるため、支払猶予等に対し効率的な進行管理の下、より一層の滞納整理に努める。</p> <p>・上記以外の指標の推移は概ね順調であり、全体的には主な取組・予算事業をこのまま継続しつつ、必要に応じて改善しながら、人口減少に伴う収益の減少が続く中、また、新型コロナウイルスの影響による収益の減少の回復傾向が見られない中、持続可能で効率的な上下水道事業経営に努め、安全で良質な水の安定供給と、下水処理による快適な生活環境の維持によりライフラインとしての使命を果たしてまいりたい。</p>					

■有識者会議による点検 (対象 非対象)

点検結果	
------	--

■施策の評価(二次評価)

【二次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後 の方向性	B-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う
上記特記事項	<p>○各指標の推移等は、一次評価のとおりと考える。</p> <p>○小施策(2)の導水・送水・配水管の整備延長については、引き続き目標達成に向けて事業の推進方法の工夫に努めること。また、下水道設備の整備更新数については、交付金の配分の動向を注視しつつ、ストックマネジメントの見直しを実施し、効率的な事業の推進と施設機能の維持・強化に努めること。</p> <p>○小施策(3)の水道料金の収納率については、新型コロナウイルス感染症により影響を受けた面に配慮しつつ、適正な滞納管理に努めること。</p>		

令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(1)安全な水の供給と快適で安全・安心な生活環境の創造

(第7次総合計画 基本計画 P.117)

指標名	指標の基準年		基準値		目標値		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
指標1	水質分析機器の整備更新数		-	-	25基 (R1~R10合計)		
	年度ごとの実績値	単年度	4基	2基	2基		
		累計	4基	6基	8基		
指標1推移	◎	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)		指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)			
指標2	事業場排水の水質検査実施箇所数		-	-	400か所 (R1~R10合計)		
	年度ごとの実績値	単年度	42か所	40か所	40か所		
		累計	42か所	82か所	122か所		
指標2推移	◎	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)		指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)			
主な取組	<p>★信頼性の高い水質検査体制の維持と水質管理の強化(水道局水質管理課、水道局浄水センター) ○給水装置や小規模貯水槽の適正管理についての周知及び指導・助言(水道局サービス課) ○河川や海など公共用水域の水質保全に向けた下水道の接続促進(水道局サービス課)【共5-2循環型社会】 ○事業場に対する排水の水質検査や立入指導の強化による適正な放流水質の維持(水道局水処理センター)</p>						
主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況)	① 名称(事業番号)		② 決算(見込)額		③ 担当		
	④ 目的と概要						
	⑤ 事業等実施状況						
	1	① 水質分析機器整備更新事業		② 463 千円		③ 水道局水質管理課	
		④ 新たな水質基準の見直しや規制強化に迅速に対応するため、水質分析機器を計画的に整備更新する。					
		⑤ 水質分析機器として、pHメーターをはじめ、計2基を整備更新した。					
	2	① 給水装置・小規模貯水槽の適正管理		② 予算なし 千円		③ 水道局サービス課	
		④ 小規模貯水槽水道の適正管理について、リーフレットやホームページ、現地調査での周知等を行う。また、給水装置工事は届け出が必要なことを周知するとともに、無届工事の場合は施工業者に対し指導を行う。					
		⑤ 小規模貯水槽水道の所有者を確認し、適正管理等を周知した。また、給水装置工事の無届工事に対し、施工業者に指導を行った。					
	3	① 下水道の接続促進		② 予算なし 千円		③ 水道局サービス課	
④ 現在の高い水洗化率の水準を維持し、少しでも向上するよう水洗便所等改造資金貸付制度の利用を含めた下水道への接続促進の周知、啓発を継続して行う。							
⑤ 対象世帯189件に対し、個別チラシ配布により下水道への接続促進を行った結果、9件の下水道接続につながった。							
4	① 適正な放流水質の維持		② 予算なし 千円		③ 水道局水処理センター		
	④ 処理場へ流入する水量や水質の変動に対して適切な対応を行うほか、事業場に対する排水の水質検査及び立入指導等を行い、排水基準を超える事業場の設置者に対しては、排水基準遵守の指導を行う。						
	⑤ 処理場への流入水量等は時間帯などにより変動するため、流入水量等にあわせた汚水ポンプの回転数調整や流入ゲートの開度調整を行っているほか、事業場の水質検査及び立入指導を適時行った。						
指標推移の要因等	<p>【指標1】「信頼性の高い水質検査体制の維持」を実現するための取組が、事業の進め方を工夫することで、計画より前倒しで進んだため。 【指標2】目標値である400か所に対して、現状としては事業場排水の水質検査は順調に実施できている。これは、排水に係る基準値が事業場で認識されてきており、水質検査の実施においても協力的な事業場が増えていることが要因と思われる。</p>						
令和4年度の取組状況	<指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等> 令和3年度の取組を継続して実施						
指標推移への対応方針 (令和5年度以降)	<指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針>						
	1	1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う 1~実現方策への取組として、大きな問題はないことから、今後も継続して、現状の取組項目を実施していく。 2~小規模貯水槽の新規設置者は工事申請時に確認し、既存の設置者等については周知するときに使用者等から聞き取り調査を行う。 3~水洗化率の向上について、今後も戸別チラシ配布やホームページ、広報誌にて促進を行う。 4~処理場の流入水量等に応じた適切な対応を行い、事業場へは今後も排水基準を超える排水を排出させないように努める。					

令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(2)上下水道機能の維持・強化

(第7次総合計画 基本計画 P.117)

指標1	指標名		指標の基準年		基準値	目標値	
	導水・送水・配水管の更新延長		-		-	34.3km (R1～R10合計)	
指標1 推移	△	◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			単年度	3.4km	3.2km	3.5km	
		累計	3.4km	6.6km	10.1km		
指標2			指標の基準年		基準値	目標値	
下水道設備の整備更新数			-		-	184基 (R1～R10合計)	
指標2 推移	△	◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			単年度	12基	9基	9基	
		累計	12基	21基	30基		
<p>◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし)</p> <p>指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)</p>							
<p>○上下水道施設の適正な維持管理(水道局浄水センター、水道局水処理センター) ★老朽施設の延命化と効果的な改築・更新(水道局水道事業課、水道局下水道事業課) ★耐震化などによる災害に強い上下水道施設の構築(水道局水道事業課、水道局下水道事業課)【共4-7防災・危機管理】 ○将来需要などに対応した上下水道施設の効率化・最適化(水道局水道事業課、水道局下水道事業課)</p>							
① 名称(事業番号)		② 決算(見込)額		③ 担当			
④ 目的と概要							
⑤ 事業等実施状況							
主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況)	① 水道施設改築更新事業		② 767,009 千円		③ 水道局水道事業課		
	④ 施設維持管理計画に基づき施設の延命化を図るとともに、更新計画に基づき効率的な改築・更新を行い、アセットマネジメントの運用によりコストの平準化を図る。併せて耐震化計画に基づき耐震化を進める。						
	⑤ 導水・送水・配水管の更新延長 3.5km 水道設備の更新数 17基 導水・送水・配水管の耐震化延長 0.43km						
	① 下水道施設改築更新事業		② 1,045,044 千円		③ 水道局下水道事業課		
	④ 下水道施設維持管理計画やストックマネジメント計画について、必要に応じて見直しを行い、効率的に延命化または改築・更新を行って更新費用の平準化を図る。併せて耐震診断を進め耐震化計画を策定する。						
	⑤ 下水道設備の更新数 9基 下水道管路の点検延長 5.1km 下水道施設の耐震診断 2箇所						
① 水道施設の適正な維持管理		② 342,822 千円		③ 水道局浄水センター			
④ 施設管理情報を有効活用し、定期的な配水池清掃など施設の保守点検等を行い、施設の延命化を図ることで、予防保全型の維持管理を目指した体制の強化を図る。							
⑤ 配水池清掃 令和3年度 4箇所							
① 下水道施設の適正な維持管理		② 246,995 千円		③ 水道局水処理センター			
④ 施設情報を下水道施設の維持管理に有効活用するほか、設備の保守点検、整備、修繕の計画を効率的に実行する。また、維持管理に係るマニュアル等を整備し、効率的な下水道施設の管理運営に努める。							
⑤ 設備点検整備 90件 機器修繕 37件 機器点検整備業務マニュアル(仕様書)などの見直し							
① 水道施設の効率化・最適化		② 予算なし 千円		③ 水道局水道事業課			
④ 将来の水需要に応じた施設規模の適正化や効率的な更新を行う。危機管理を考慮した最適な運用に努めるとともに、個々の施設については今後の位置付けを明確にし、優先度に応じた整備を行う。							
⑤ 施設規模の適正化に向け、ダウンサイジングについて引き続き検討を進めた。また、更新予定施設の設計に当たっては高効率な機器の導入について検討をおこなった。							
① 下水道施設の効率化・最適化		② 予算なし 千円		③ 水道局下水道事業課			
④ 下水道施設の効率化及び最適化を図るにあたり、新技術の導入に向けて検討する。更新の際には施設機能の集約化、ダウンサイジングなどについて十分な検討を行い下水道施設の再構築に努める。							
⑤ 新技術についての情報収集を進めるとともに、蘭島処理区の汚水処理に関する広域化・共同化について余市町との情報交換を実施した。							
<p>【指標1】資材単価等の上昇により、令和3年度までの目標値(※12.07km)には至っていないものの、令和10年度目標値を年平均した場合の令和3年度までの更新延長値(10.29km)とほぼ同水準(10.10km)である。 【指標2】交付金の配分額の縮小に伴い、事業の実施規模を縮小したため令和3年度までの目標値(※40基)には至っていない。今後もこの状況が継続される可能性があるため、ストックマネジメント計画の見直しを行い効率的な改築・更新を進める必要がある。 ※目標値は、第2次小樽市上下水道ビジョンでの数値。</p>							

<p>令和4年度の 取組状況</p>	<p><指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等> 【指標2】交付金事業予算に合わせたストックマネジメント計画の見直しを実施 指標2に係る以外の主な取組については、引き続き令和3年度を取組を継続して実施</p>			
<p>指標推移への 対応方針 (令和5年度 以降)</p>	<p><指標推移の要因、令和4年度を取組状況等を踏まえた今後の対応方針></p> <table border="1" data-bbox="354 226 1485 315"> <tr> <td data-bbox="354 226 491 315"> <p>1</p> </td> <td data-bbox="491 226 1485 315"> <p>1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う</p> </td> </tr> </table> <p>1,2～維持管理計画・更新計画に基づき、効率的な改築・更新を行い、耐震化の取組も進める。 3～配水池清掃について計画的に進め、排水できない池については、予算を見極め、ロボット清掃を実施する。 4～施設情報を下水道施設の維持管理に有効活用するほか、設備の保守点検、整備、修繕を今後も効率的に実行する。 5～水道施設の規模や立地、水位関係を整理し、施設の統廃合について引き続き検討していく。 6～新技術について今後も情報収集を進め、導入に向けての検討に努める。</p>		<p>1</p>	<p>1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う</p>
<p>1</p>	<p>1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う</p>			

令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(3)経営基盤の強化と市民の視点に立った事業経営

(第7次総合計画 基本計画 P.117)

指標	指標名		指標の基準年		基準値		目標値	
	水道料金、下水道使用料の収納率		平成30年		①水道99.3%		99.3%	
					②下水道99.3%		99.3%	
年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
		①99.1%	99.1%	98.9%				
		②99.3%	99.4%	99.5%				
指標推移	△	◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)					
主な取組	<p>★財務体質の強化に向けた高い収納率の維持と新たな経費節減への取組(水道局総務課、水道局業務課)</p> <p>○広報誌やイベントなどを通じた広報活動の充実(水道局総務課)</p> <p>○奥沢水源地など歴史的価値のある資産の有効活用(水道局水道事業課、水道局総務課、建設部公園緑地課)</p> <p>○小水力発電など再生可能エネルギーの利活用の推進(水道局水道事業課)</p>							
主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況)	① 名称(事業番号)		② 決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① 高い収納率の維持		② 予算なし 千円		③ 水道局業務課		
		④ 水道料金等徴収業務を委託した民間事業者のノウハウを活用した未収金対策により、高い収納率の維持及び更なる向上を目指す。						
		⑤ 令和3年度の収納率 水道料金 98.96% 下水道使用料 99.50%						
	2	① 経費節減への取組		② 予算なし 千円		③ 水道局総務課		
		④ 収益が年々減少する一方、施設の老朽化に伴う維持補修費の増大が見込まれることから、局内各課の連携や文書管理の徹底で業務の効率化を図るほか、企業債発行条件の検討など、経費節減に取り組む。						
		⑤ 施設整備部門と維持部門の連携による業務の効率的な推進や、データ入力方法等の見直し、発注などのデータ管理の共有化による業務の効率化を図った。						
	3	① 広報活動の充実		② 900 千円		③ 水道局総務課		
		④ より多くの市民が上下水道に興味を持ってもらえるよう、広報誌やホームページの内容充実を目指すとともに、イベントや施設見学などの情報発信を行い、水道水のイメージアップを図る。						
		⑤ 緊急事態宣言等により、水道週間及び下水道の日のパネル展、水道局サマーフェスティバルを中止した。下水道のPRについては、図書館で企画した「下水道 みえないところで再資源」が開催された。						
	4	① 歴史的価値のある資産の有効活用		② 230 千円		③ 水道局主幹(防災・企画調整)		
④ 奥沢水源地など、歴史的価値のある施設を保存するとともに有効活用に向け検討する。								
⑤ 奥沢水源地については、次期「緑の基本計画」の中で利用計画等の検討に着手したほか、奥沢水源地水管橋の一般開放を行った。								
5	① 再生可能エネルギーの利活用の推進		② 予算なし 千円		③ 水道局水道事業課			
	④ 水道管路の水流エネルギーを活用した小水力発電や、下水熱利用による施設場内融雪など、新たなエネルギーの利活用について、可能性や採算性など調査・研究を進める。							
	⑤ 水道施設における、再生可能エネルギーの利活用について情報収集をおこない、既存施設における課題整理を進めた。							
6	①		② 千円		③			
	④							
	⑤							
指標推移の要因等	・新型コロナウイルス感染症の影響に係る支払猶予や柔軟な対応を実施し、効率的な進行管理を行ったものの水道料金は大口需要者の支払遅延により目標値を下回ったものであるが、下水道使用料は引き続き未収金対策が維持できたことにより目標値を上回った。							
令和4年度の取組状況	<指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等>							
指標推移への対応方針 (令和5年度以降)	<指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針>							
	1	1:各事業をこのまま継続して推進する						
		2:予算事業等を改善しながら推進する						
		3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う						
1~新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されるが、支払猶予等に対し効率的な進行管理を行い、大口需要者の滞納管理に努め、引き続き目標値以上の収納率維持を目指す。 2~今後も、事務効率化・経費節減につながる文書管理方法の見直し検討を続け、企業債の将来の利息負担軽減に努める。 3~コロナ禍の状況を見極めてサマーフェスティバルの開催を判断する。また「小樽の水」に代わる新たなPR展開を引き続き検討する。 4~奥沢水源地については、「緑の基本計画」の改訂に向け関係機関と協議を継続する。								

令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(4)危機管理対策の充実と広域連携の推進

(第7次総合計画 基本計画 P.118)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値	
	災害対策訓練実施回数		平成30年		4回	5回	
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			7回	8回	6回		
指標推移	◎	◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値 ≥ 標準値 ⇒ ◎、実績値 < 標準値 ⇒ △)				
主な取組	<p>★応急資機材の確保やマニュアルの充実などによる危機管理体制の強化(水道局総務課)</p> <p>○近隣自治体との連携による組織力の強化や災害時における広域連携の推進(水道局総務課)</p>						
主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況)	① 名称(事業番号)		② 決算(見込)額		③ 担当		
	④ 目的と概要						
	⑤ 事業等実施状況						
	1	① 危機管理体制の強化		② 予算なし 千円		③ 水道局主幹(企画調整)	
		④ 近年、大規模自然災害が多発するなど、危機管理の重要性が年々高まっているため、災害その他非常の場合に対応したマニュアルや応急資機材及び物資の確保の充実を図る。					
	⑤ 災害時等に職員の行動指針となる小樽市上下水道BCPを策定した。また、コロナ禍で行動制限があった中、感染防止対策を考慮しながら災害を意識した訓練を目標値を上回る6回参加したことなど、危機管理体制の強化を図った。						
	2	① 広域連携の推進		② 予算なし 千円		③ 水道局主幹(企画調整)	
		④ 将来にわたって上下水道事業が安定して持続できるよう近隣自治体などと連携し、組織力を強化することや災害時の協力体制をより強固なものに推進する。					
	⑤ 関係自治体と災害を意識した訓練に参加したほか、千島海溝沿い超巨大地震後の支援等を検討する会議や近隣自治体と広域化に向けた意見交換等を行うなど、関係自治体と連携による組織力強化や広域連携推進に努めた。						
	3	①		② 千円		③	
		④					
		⑤					
	4	①		② 千円		③	
		④					
		⑤					
5	①		② 千円		③		
	④						
	⑤						
指標推移の要因等	コロナ禍のため、市民参加型の訓練に参加できなかったが、小樽市総合防災訓練など参加可能なものに積極的に参加した結果、目標値を上回った。						
令和4年度の取組状況	<p><指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等></p> <p>令和3年度に策定した小樽市上下水道BCPのブラッシュアップを行うと共に、訓練などにも引き続き参加することで、危機管理体制を強化に努める。</p> <p>また、関係自治体と引き続き協議や訓練を行い、連携による組織力の強化や災害時における広域連携の推進に努める。</p>						
指標推移への対応方針(令和5年度以降)	<指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針>						
	1	<p>1: 各事業をこのまま継続して推進する</p> <p>2: 予算事業等を改善しながら推進する</p> <p>3: 予算事業等の内容の全面的な見直しを行う</p> <p>1~応急資機材の確保や局内研修の充実を図るとともに、合同研修や訓練などに積極的に参加するほか、小樽市上下水道BCPのブラッシュアップを行うなど危機管理体制を強化を図る。</p> <p>2~関係自治体と災害を意識した訓練、会議等に参加するなど、連携による組織力の強化や災害時における広域連携の推進に努める。</p>					